

## 東日本大震災・復興まちづくり

私たちがなすべきこと

鳴海邦碩

### 日本都市計画学会の活動

3月14日 / 「(仮)東北地方太平洋沖地震 防災・復興問題研究特別委員会」の設置承認、直ちに「準備会」の立ち上げ

3月23日 / 日本都市計画学会会長・土木学会会長・地盤工学会会長 共同緊急声明

3月31日 / 建設関連7学会、国土・地域復興に関する共同アピール >> (社)空気調和・衛生工学会、(公益社団)地盤工学会、(公益社団)土木学会、(社)日本建築学会、(公益社団)日本コンクリート工学会、(社)日本造園学会、(社)日本都市計画学会

< 広域被災地復興の中核となる「広域協働復興組織」の確立を提唱 >

4月12日 / 鳴海(元都市計画学会会長)と中瀬勲(元造園学会会長)が上記提言「広域協働復興組織」に対する理解と推進への力添えを得ることを目的に兵庫県知事と面談。

### 日本都市計画学会の活動

4月22日 / 「防災・復興問題研究特別委員会」設置承認  
委員長 鳴海邦碩 (元会長、大阪大学名誉教授)

部会1 部会長 北原啓司(弘前大学 教授)

>> 都市復興のあり方の提案と支援

部会2 部会長 中林一樹(明治大学 特任教授)

>> 都市防災のあり方の提案と支援

部会3 部会長 苦瀬博仁(東京海洋大学 教授)

>> 大規模被災の影響と社会システムの再編の提案と支援

・設置期間:3年間

・他学会等との積極的連携の推進

>> 例:「地域基盤再構築に関する日本都市計画学会・土木学会連携委員会」

1995年1月29日 被害実態迅速調査を持って兵庫県、神戸市を訪問。その後、コープランで調査打ち合わせ。井口、丸茂、土井、鳴海。



### 日本都市計画学会の活動

4月26日 / 建設関連7学会、国土・地域復興に関する共同アピール第二弾

・地理情報、被災や避難の状況・要因などを正確に把握することが必要

・津波への対応をはじめとして対策の基本方針を確立

・多様な被災状況、自然環境、歴史文化、産業基盤、コミュニティに十分に配慮した復興計画の立案・推進

・専門家を、一定期間、現地へ派遣できる社会的・経済的・制度的な枠組みの構築

### 阪神・淡路大震災と比べて

阪神・淡路大震災 >> 未曾有の〜〜

東日本大震災 >> 千年に一度〜〜、想定外の〜〜

地震の被害 >> 場所性が残る

津波 >> 流される、痕跡が無くなる、多数の行方不明者

>> 高潮、津波を意識しながらの復興

(放射能 >> 複雑な仕組みを持つ、見えない影響と恐怖)

生産基盤の喪失

・漁業の被害

>> 海という生産の場、生産手段としての船、多数の加工工場、流通システム、生産従事者、後継者〜〜そして居住地

・農地の被害 >> 海水冠水 >> (農地の放射能汚染、地盤沈下)

## 阪神・淡路大震災 都市再生戦略策定懇話会

1995年2月11日第1回～3月30日第3回

>> 提言 「阪神・淡路震災復興戦略ビジョン：ひょうごフェニックス計画に向けて」

印象に残る発言

下河辺淳委員

>> 「地域のビジョンを造り直そうとするのではなく、これまでの総合計画などを基礎として、復興計画を策定する方針で取り組むべきと考える」>>> 今回は、都市機能の一部が失われた都市と、壊滅的被害を受けた都市・集落では異なる。

米山俊直委員

>> 「防災重視の固い復興を目指すのではなく、文化の復興、新しい文化の創造という観点が重要である」>>> 軽視されがちだが、

重要な視点だ。



気仙沼市本吉町蔵内 2011.5.1

1名死亡、2名泳いで帰還。防潮堤の水門は破れない保障はないといい続けてきたことが功を奏し、多くの住民は逃げて助かったと、元消防団長のおじいさん。このような災害があり得ることを全国の人たちに伝えて欲しい。



## 都市・集落の復興像の早期確立

>> そのために、立ち上がるべきフィールドの確認、つまり、被害の全体像を把握しなければならない。

>> その上で、被災都市・集落の特徴に応じた復興像が描かれるべきである。

>> 住民の理解を得た上で、早期に目標として確立する。

>> 市街地や集落の復興には時間をかける。

仕事の復興を優先する。出小屋、浜小屋のイメージ、復興を被災地の仕事にする。



国土交通省

東日本大震災からの市街地復興手法検討業務

平成24年3月9日(金) まで

## 「復興と防災のあり方」は相互に関連する

>> 基本的認識を共有する必要がある。

>> 防潮堤の考え方と復興市街地の配置・構成等

海を感じさせなくする、海を見えなくする規模の防潮堤の再建は必要か？

海岸近くに立地する機能は必要なもののみにする。

>> 居住と仕事、仕事の場の再建

生活と漁業空間、漁業施設、加工施設、農業空間、居住地の全ての再建が求められている。

>> 実態調査、計画づくりのいずれにおいても関連分野の連携が必要。



南三陸町 2011.4.30

海が見えないほどの高さの防潮堤。それが破壊された。



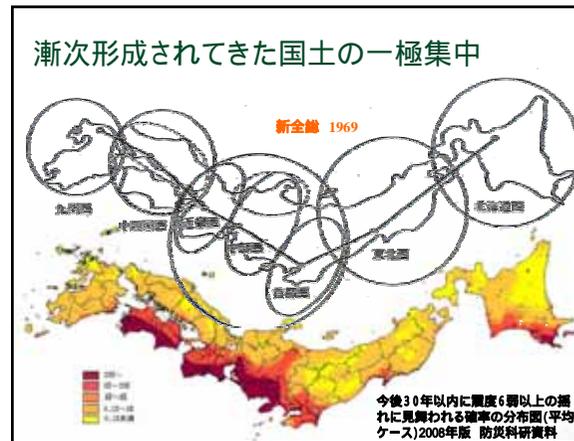
## 店舗が再開するだけで希望を感じる 石巻市 2011.4.30



石巻市 2011.4.30



石巻市 2011.4.30



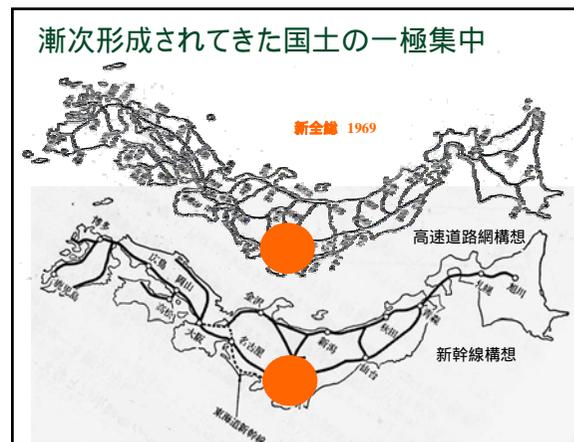
石巻市 2011.4.30

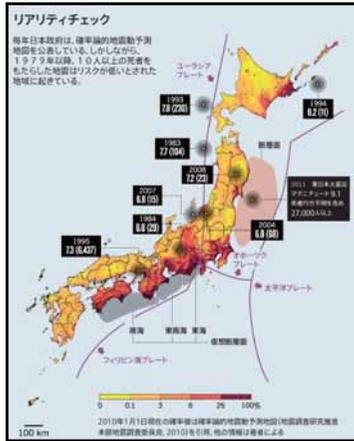


### 災害ツーリズムに取り組む

～ 観光の復興

- >> 被災の実態を体感する
- >> 復興への力を体感する
- >> 復興を支援する
- >> 経済活動の復興を支援する、参加する
- >> 漁港、漁業の復興を支援する
- >> 被災地周辺にある魅力を再発見する
- >> 風評を克服する





氾濫する想定外

ある一定の状況や条件を仮に想い描くこと

思い描けなかった、思っても見なかった

科学モデルも重要だが、歴史に学ぶことはもっと重要

Nature, 14 April 2011  
ロバート・グレー教授  
東京大学大学院理学系研究科  
地球惑星科学専攻

広域協働復興組織 先行する活動

(社)空気調和・衛生工学会、(公益社団)地盤工学会、(社)土木学会、(社)日本建築学会、(社)日本コンクリート工学協会、(社)日本造園学会、(社)日本都市計画学会の建設系7学協会会長 > 復興にかかるアピール

関西広域連合の対応

- 福島県 << 主として京都府、滋賀県
- 岩手県 << 主として大阪府、和歌山県
- 宮城県 << 主として兵庫県、徳島県、鳥取県
- 仙台市 << 主として神戸市
- 気仙沼市 << 主として尼崎市
- 南三陸町 << 主として西宮市

緊急支援

復興まちづくり支援

名取市 2011.4.29



国土の均衡ある発展

- >> 繰り返し言われてきたスローガン
- >> 現実には一極集中が進んだ

- \* 首都移転
- \* 首都機能の一部移転
- \* 複都、陪都制
- \* 東日本、西日本論
- \* 日本海軸論
- \* 国土機能のリダンダンシー

原発リスク  
大災害の可能性



石巻市 2011.4.30



## 魂ぶり魂鎮めの丘、鎮魂の丘

桃畑より、お隣様が並ぶ風景

夢、黒澤 明

## 賢治の生い立ちと日本社会

明治29年(1896) 0歳 三陸大津波  
明治36年(1903) 7歳 東北凶作  
明治38年(1905) 9歳 日露戦争終結、東北凶作  
明治39年(1906) 10歳 東北凶作  
明治40年(1907) 11歳 岩手豊作  
明治42年(1909) 13歳 伊藤博文暗殺  
明治45年(1911) 16歳 東北大凶作  
- - 明治期 北海道拓殖事業  
大正2年(1913) 17歳 第一次世界大戦勃発  
大正6年(1917) 21歳 ロシア革命

## 賢治の生い立ちと日本社会

- - 大正期 河川、港湾整備  
<<< 凶作による農村の疲弊を救済する目的  
昭和6年(1931) 35歳 昭和恐慌  
<<< 軍部勢力強化  
遺書を書く。「雨ニモマケズ」を書き留める。  
昭和8年(1933) 37歳 ヒットラー内閣  
「郊外」、「県道」を発表。没。  
昭和11年(1936) 東北興業株式会社  
東北振興電力株式会社  
昭和14年(1939) 企画院、国土計画の構想検討、

昭和17年(1942)

## 魂ぶり魂鎮めの丘、鎮魂の丘

桃畑より桃畑の風景

夢、黒澤 明

## 賢治の生い立ちと日本社会

盛岡高等農林学校卒業論文  
「腐植質中ノ無機成分ノ植物ニ対スル価値」  
大正7年(1918) 22歳 シベリア出兵、  
<<< 世界大戦終結、  
<<< 全国米騒動  
大正11年(1922) 26歳 ソ連邦成立  
大正12年(1923) 27歳 関東大震災  
大正13年(1924) 28歳 レーニン没  
春と修羅、注文の多い料理店、銀河鉄道の夜

## 雨にも負けず！

雨にも負けず 風にも負けず  
雪にも夏の暑さにも負けず  
丈夫な身体を持ち  
欲はなく決していか瞋(イカ)ら  
ず いつも静かに笑って  
いる  
一日に玄米四合と味噌と少しの野菜を食べ  
あらゆることを自分を勘定に入れずに  
よく見聞きし分り そして忘れず  
野原の松の林の蔭の  
小さな萱葺きの小屋にいて

## 雨にも負けず！

東に病気の子供あれば  
行って看病してやり  
西に疲れ  
た母あれば  
行ってその稲の束を負い  
南に死にそうな人あ  
れば  
行って  
て怖がらなくてもいいと言い  
北に喧嘩や訴訟があれば  
つまらないから  
やめると言い  
日照りのときは涙を流し  
寒さの夏はおろおろ歩き  
皆にデクノ  
ぞし呼ばわ